

### 第一三回 ひとは自由になれるのか——スピノザの思想（八）

受け身を抜け出す突破口——感情と観念の非対称的關係

ひとはどうすれば、前回見た「とらわれた状態」「受け身の状態」を抜け出せるのでしょうか。あらゆる感情の原型は、わたしたちがコナートゥスと呼んできた「自らの存在に固執しようとする力」なのですから、人間が生きていることは感情をもつことに直結します。したがって、理性を無理矢理にでも奮い立たせて感情を抑制したり打ち消したり、というやり方は当てになりません。それは生きることそのものの否定につながりかねないという意味で、そもそも選びようがない選択肢なのです。

では、どうするか。感情がストレートに抑制したり打ち消したりできないものであるならば、残る手立ては一つしかありません。自分をその都度動かしている感情、自分がその都度直面している感情を、一つ一つきちんと認識していくことです。

「きちんと認識する」とは、『エチカ』の用語では「十全な観念 *idea adequata* をもつ」という言い回しで表現されます。その反対、つまりきちんと認識していない状態では、ひとは「十全でない観念 *idea inadequata*」をもち、この十全でない観念に動かされていま

す。十全でない観念を一つ一つ取り上げなおし、これを十全な観念へと組み換えていく。そしてこの作業を地道に繰り返していくことにより、それまで受け身の感情に流される一方だった人間のあり方が、感情を感情として持ち続けながらも自発的・能動的な方向に徐々に向けかえられていく。スピノザはそういう息の長い、しかし考えてみるとそれしかないような自分の感情との向き合い方を『エチカ』後半部で示そうとします。

その突破口となる伏線は、じつは早くも『エチカ』第二部の冒頭近くに敷かれています。デカルトの「わたしは考えている」との比較で、「人間は考えている」という公理にはすでにふれておきました（第二部公理二、第一〇回参照）。スピノザは「考える *cogitare*」という言葉をはつきり定義して使っていませんが、前後関係から察するに、「考える」とは「考えをもつ *ideam habere*」ことと解して構わないでしょう。この「考え *idea*」は、一七世紀あたりの哲学では「観念」という邦訳があてられるのが普通ですので、考えるとは「観念をもつ」ことでもあります。日常の日本語で観念というとき、たとえば「動かぬ証拠を突き付けられて観念する」といった具合に、ほぼ「抵抗をあきらめる」という意味でしか使われないので注意が必要です。

観念というものについて、最後の公理ではこのような指摘が行われています。

その当人のうちに、その人が愛したり欲したりしている何かの観念がなければ、愛や欲望（中略）といった思考様態はありえない。これに対し、観念なら、たとえ他の思考様態が何一つ伴っていないなくても存在しうる（第二部公理三）。

スピノザによると、わたしたちがこれまで取り上げてきた愛や欲望といった感情も「思考様態 *modi cogitandi*」、つまり考えるという営みの一つのあり方です。理由は単純で、この引用からも分かるように、愛も欲望も何かに対す、愛であり欲望であるわけで、この何かの「観念」つまり考えを伴っていないければそもそも感情として成立しないからです。「これに対し」逆は必ずしもその限りではない、とスピノザは指摘します。「観念なら、たとえ他の思考様態が何一つ伴っていないでも存在しうる」。つまり感情と切り離れたところで考えそのものを吟味することは、実際問題としてむずかしい局面はもちろんあるかもしれませんが、可能か不可能かといえば基本的に可能だということです。感情と観念の間には、このような非対称的關係が成立しているとスピノザは考えます。一方では、感情はそれが向けられている観念に決定的に依存しています。たとえば A という人物の観念に向けられた憎しみは、A がいなくなれば消失するでしょう。ひとが憎い相手を殺そうとするのはそのためです。また、なにも殺してしまわなくても、A に対する

認識が変われば、つまり A の観念が変化すれば、憎しみにも必ず何らかの変化が出てくるはずで、逆に言えば、感情が向けられている対象の観念が変わらない限り、感情はいままで経つても変わりません。

他方、先ほどから述べているように、観念の方は、それが目下のところ絡みつかれている感情と、ひとまず独立に取り上げられ、吟味されることが可能です。つまりひとは、A に対する憎しみをひとまず棚上げして、自分の中にできてしまっているこの A という人物の観念を取り上げ、分析することができます。そしてこの分析の結果 A の観念に変化が生じれば、つまりその人がもっている A に対する考えが変われば、A に対する憎しみにも必ず何らかの変化が生じます。ひとはこうして、感情と結びついている観念の方をまず整理することで、感情をいわば搦め手から整理することができます。そしてそこに、憎しみに対して受け身になって流されている現状から、解放される可能性も隠されているのです。

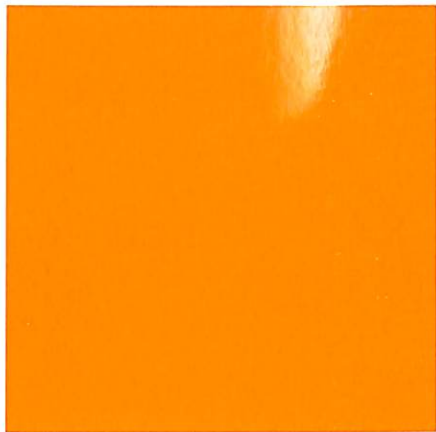
### 憎しみをどうやって無力化するか

モデルケースを想定して、実際にやってみましょう。わたしが A という人物を憎んでいるとします。憎しみとは、前回述べたように「外的な原因の観念を伴った悲しみ」のこと

# スピノザ

人間の自由の哲学

吉田量彦



講談社現代新書

2652